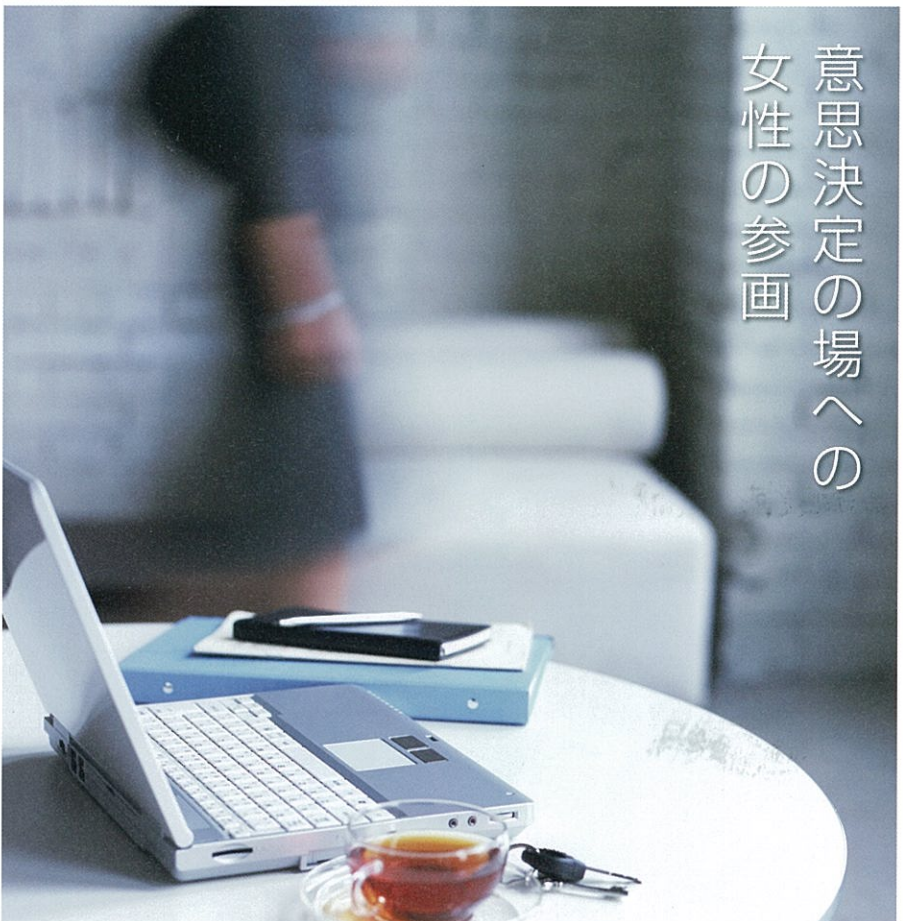


京都国文学 研究雑誌 第 3 号
2013. 10. 20 - 11. 6

意思決定の場への 女性の参画



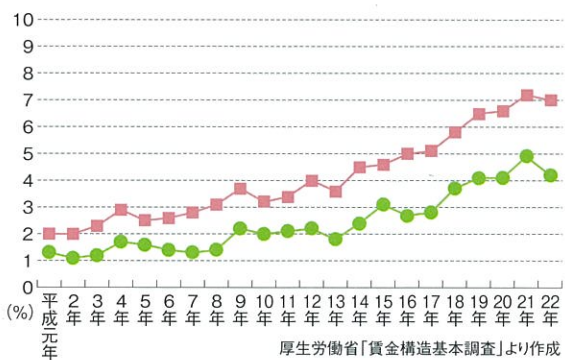
平成17年に政府が策定した「第2次男女共同参画基本計画」では、社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度になることが目標とされていました。

しかし現状を見てみると、政策・方針決定過程に占める女性の割合は、100人以上の企業で見ると、部長級で4・9%、課長級で6・72%となっています。男女共同参画では先進国と言われるノルウェーなど、国会議員や企業の役員に一定の女性比率を義務付けている国もあり、日本での割合は国際的に見てもかなり低く、政策・方針決定過程への女性の参画は進んでいるとは言えません。

この結果を受けて、平成22年12月に新たに策定された「第3次男女共同参画基本計画」においても、「2020年30%」の目標に向けて、特に政治分野、経済分野における達成を緊急かつ重要な課題と位置づけています。

政策・方針決定過程への女性の参画が進んでいない現状は、身近にロールモデル*となる指導者や先輩がいないことから将来のキャリアへの不安を感じ、女性自身が指導的地位に立つことを敬遠しがちであることが大きな原因の一つと言われています。また、「男性は主要な業務、女性は補助的業務」といった旧来の固定的性別役割分担意識により、指導的立場に立つ機会が十分に与えられ

役職別管理職に占める女性の割合



2020年 **30%**

2020年に政策・方針決定過程に女性が参画する目標割合

てこなかったことや、指導的立場に向けたキャリアを形成する時期と出産や子育ての時期が重なり、両立が難しいことも大きな原因と考えられています。こういった仕事と家庭の両立支援や、ライフスタイルを考慮したキャリア形成のための環境整備が必要となっています。

意思決定の場に男女が共に参画することは、多様な意見や考えを政策・方針や商品・サービスに反映させていくために必要不可欠です。単に様々な分野に女性が参画していくだけでなく、その分野で指導的な立場に立ち、意思決定の場で活躍していくことが期待されています。

*ロールモデル：自分の行動のお手本となる存在

